

は水人数葉田の如く東西へ送られしとく
常務公八千少く思ひよきとて切を死ねん
小攻勢人小知の長途と行てつる道又葉田の如く
為方なくまの明の方へせよとて谷田と和泉との
隙^{ちひ}穿へ進入る道人馬強くと河果する(きと)四連
や活なりらん世甲の夜大坂より早花御来る田
沼部少輔送公して佐和山より大坂へ馬を大名と
川自佐々城よりく下と行て東佐々城の怪動野
くくや若末より介よりし中末これに怪是世昔の
内知馬山と和泉と和泉の地久赤飯原七

と云々人より父伊賀守に寄るの百あり伏見へ移り
りりり伊賀守より一山あり山忠告りん和泉と中
りりりり伊賀守の人名と行て之れ斗少く一五列と
忍びお内通おきりりりり山先子皆川山城を降
る江原岩山の地蔵堂お東内通(中)よりき方と申
りれ皆川人といふ小山の山内通きりり赤飯小山
にありりれお多活八市山内通と白川城の御
りりり赤飯ハ何より乃人を除く道よりひりりり上
子細中よりりれ山内通と一山に呼入りりり
りりり赤飯よりりりり上牧の年替語代三